

編集後記

▼東西の壁が崩壊！ 与野党勢力の逆転？ もはや民衆は黙ってはいない。いよいよ動き出したのです。

深い現実洞察と広い社会認識が、その信仰確立の前提となっているのが、日蓮聖人の宗教です。変化の激しい今日、人々は何を考え、何を求めているのか。もし四海帰妙を目指すのであれば、常に鋭い感受性を持って時代をとらえていくことが不可欠です。新・新宗教の急成長は、過去にとらわれず、時代に対応した教化によって人々の心をとらえているからでありましょう。中央教研における横山滋氏の講演「日本人の宗教意識」は、我々への大きな警告となり、中部教区の教研報告も参考になるところです。

▼湯田先生の「聖書と仏教」は、ユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の各聖典について、仏教にも触れながら、その物語を中心に一般とは異なった角度から解説されていますので、興味をひくところです。

▼天皇制に関しては、議論の絶えないところですが、中濃教篤師より、明治から第二次大戦に至る国家神道体制

下の本宗の対応について述べていただきました。

▼第一線で活躍されている秋永・大島両先生の宗教教誨の報告は、教化学の重要性をあらためて痛感させられました。

「我もいたし人をも教化候へ」とは、宗祖の教訓ですが、このような人材を育成する教育制度の早期確立こそ、教団の明日を決めるものではないでしょうか。

▼名称は？ 成分は？ 効能は？ 年月のみが過ぎ去っていく。人々の心に、知恵と慈悲を育てるべき総弘通運動は如何に……。

▼御講演、御執筆賜りました各聖に心より御礼申し上げます。
(竹岡記)